



塚原 美樹子さん

輝く少年たちは、私の宝物

撮影スポット：県立常盤高校グラウンド

自宅の隣の常盤高校のグラウンドで、小学生たちが日曜日にサッカーの練習をしています。澄み渡る青空の下、無心にボールを追いかけるいきいきとした姿は、若さに溢れ、漲るようなパワーを感じる瞬間に出逢えるひとときです。引き込まれるように見つめているうちに触発されて、いつの間にか元気をもらっているのです。サッカー部のマネージャーをやっていた中学時代の自分と重なり「未来のサッカー選手たちよ！頑張って!!」とエールを送りたくなってきました。私にとって…この時間…この場所こそが、自分を奮い立たせてくれる明日への活力であり、思いつき笑顔にしてみらえる大好きな風景なのです。



korekara

読者モニターさんと私たちのまちを見つめてみました。



あなただけの“なんかいいね”

そんな景色を探してみませんか？

「景観」をもっと身近に感じれば、毎日の生活がちょっと素敵になるかも…？
そこで、このコーナーでは、「korekara」の読者モニターの皆さんに、身の回りの“なんかいいね”と心惹かれる景色をとらえ、その想いを綴っていただきました。



牛久 亜紀子さん

オレンジ色に輝くライトの夜景は、“ホット”させます

撮影スポット：北区吉野町の陸橋の夜景

私の勤務地からほど近くの、大正製薬脇の産業道路の橋の夜景は、オレンジ色に輝くライトが暖かく、仕事帰りの私を安心させてくれるホットとした景観です。日々のざわざわした日常を忘れさせてくれるような感じがします。景観というのは、人それぞれ感じ方や捉え方が異なります。私自身がパッと見て「この景色いいなあ」「また見たいなあ」という感性を大切にしていき、私が選んだ「ホット」できる景観をわがまち・さいたま市の中でたくさんストックをしていければいいなあと思います。ふだん何げなく歩いている場所も、少し気にしていれば、きっと素敵な「さいたま市」を改めて発見をし認識できると思います。輝くさいたま市を皆さんで見つけましょう!!



今回の取材にご協力いただいた「korekara」読者モニターの皆さん

■松本浩邦さん 緑区在住 (31歳・会社員)

まちづくりにはそれほど関心はなかったのですが、広報誌の制作に携わりたくて、この企画に参加してみました。子育て中なので、子育て支援にとっても興味があります。このまちは子育て世帯にどれだけ優しいのか、改めて認識できればと考えています。

■塚原美樹子さん 桜区在住 (50歳・主婦)

小さいころから、読むことと書くことが好きで、今は詩も書いています。ときには新聞にも投稿。市の賞にも入選しました！いろいろな方に会って、考えや意見を交わすことで刺激になり、自分自身も変わるかも、と思って、今回参加をしました。

■中山好子さん 浦和区在住 (65歳・主婦)

「korekara」は、市の広報誌なのにおしゃれ。普段住んでいて感じたことを誌面に活かしたくて、モニターに応募しました。住み良いまちのためには、保守的な考え方じゃなく、いろんな価値観が大切なことを、自然な形で伝えていければと思います。

■牛久亜紀子さん 中央区在住 (34歳・会社員)

物怖じしないで、人と交流するのが好きなんです。考え方や年代の違う人たちと挑戦してみたいと思い、参加を希望しました。以前住んでいた鴻巣市と比べると、さいたま市は少し緑や星が足りないかな。けど、暮らしやすい都会、というイメージです。